



健康テラス



もうまくはくり 網膜剥離について



きのした眼科
木下 博文 先生

みなさん、こんにちは。今回のテーマは「網膜剥離」ですがどのようなイメージをお持ちでしょうか。

飛蚊症、ボクシング、失明、手術などといったところでしょうか。おおむね合っていますが、そのイメージは網膜剥離の中でも代表的な裂孔原性網膜剥離というものになります。早急な手術が必要になるため、今回はその説明をします。

統計的には20代と50代に多いとされ、さらに近視の方に起こりやすいですが、基本的にどなたでも発症する可能性があり、しかも突然起こります。主に眼内の加齢性変化で目の奥の網膜に破れ目(裂孔)ができ、そこから網膜がはがれていきます。裂孔ができる際に出血や色素が出ることで飛蚊症を自覚すること

もあります。網膜がはがれた部分は見えなくなるので視野が欠けたように感じ、さらに中心の黄斑と呼ばれる部分がはがれると視力も低下します。手術をしても、はがれていた部分は感度が低下するため、できるだけ網膜剥離の範囲が少ないうちに治療をすることが望ましいことになります。

対策として、まず自分の目の状態を普段から知っておく(裂孔ができやすいような弱い部分がないか)ことや、何か気になる症状が出たら早めに眼科を受診することをお勧めします。受診された際は散瞳での眼底検査が望ましく、4時間程度見にくい状態になりますので、車の運転はなさらないようにしてください。

かい 介GOの部屋

～認知症について②～

2回目となる今回は、認知症になった場合や心配事があった場合にどうすればいいのかな…ということをお伝えできればと思います。

長与町では、さまざまな認知症の取組みを『認知症初期集中支援チーム検討委員会』(医療関係者、介護関係者、関係行政機関、住民代表、役場関係課職員13名の委員で発足)で意見交換を行いながら推進しています。

本取組みは、全国の市町で設置されており、認知症サポート医や医療・福祉・介護の専門職で構成されるチームで、集中的に6か月間を目安に支援を行うこともあります。『認知症初期集中支援チーム』に限らず、何か認知症のことでお困りごとや相談がありましたら、まずは役場介護保険課内にある「長与町地域包括支援センター」にご相談ください。認知症地域支援推進員もいますので、一緒にお困りごとについて考えていければと思っています。



また『認知症介護者リフレッシュの集い』を2か月に1回(奇数月)、第3木曜日13時30分～15時、老人福祉センターで開催しています。日頃の悩みや不安、介護方法の工夫など参加者同士で自由に話し合い、情報交換をしていく場所です。実際に介護されている方同士で話をすることで、参考になる対処方法が見つかったり、気持ちが楽になることもあるようです。



見守り体制の一つの取組みとして、令和3年8月から『認知症高齢者等おかけりサポート事業』を行っています。ご自宅で生活されている認知症等で行方不明になるおそれのある方について、名前や特徴、写真などの情報をあらかじめ登録しておくことで、早期発見や保護に役立てるしくみです。事前に介護保険課へ登録申請すると、後日見守りシールが届きますので、衣服や持ち物へ見守りシールを貼りつけてもらいます。登録した情報は「長与町地域包括支援センター」と「時津警察署」へ共有され、発見時、登録された緊急連絡先に連絡が入るしくみとなっています。



また、認知症の方とご家族の不安を少しでも軽くできるように、認知症の進行状況に応じて、どのようなサービスや支援を利用できるのかをまとめた「認知症ケアパス」を、今年度中に改めて作成予定となっておりますので、新しいパンフレットができた際には改めて皆さんにお知らせしたいと思います。

次回は、知っておきたい「在宅医療介護連携について」です。お楽しみに！